

朝食の用意が できました

マリア・ウェルチ

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

この話はアメリカ合衆国での出来事です。
ス パゲッティソースのにおいで、デビッドのおなかが鳴りました。「夕食はいつできる？」
「あとほんの数分」と、パパはソースをかきまぜながら言いました。パパはデビッドに目をやりました。「何をしていますんだい？」
デビッドは「子供のガイドブック」を見せました。「新しい目標を選ぼうとしているんだ。でも、どれにしたらいいかわからなくて、どれも良さそうだから。」
「どんなアイデアがあるんだい？」
デビッドはガイドブックをめくりました。「初等協会の歌を歌う、隣人に奉仕する、かんげいする……。」そして、もう一つ目に入りました。「あ！パパ、料理の仕方を学ぶのを手伝ってくれる？」
「もちろん」と、パパは言いました。「明日、特別な日曜日の朝食を作るんだ。早起きして手伝ってくれるかい？」
「分かった！」と、デビッドは言いました。
翌朝、デビッドは早起きをして、パパと台所で集合しまし

デビッドは料理の練習をすればするほど、自信がついてきました。

た。パパが材料を取り出す間、デビッドは手をあらいました。

パパはデビッドに、ナイフの持ち方と、果物を安全に切る方法を教えました。それからデビッドにパンケーキの材料を全部まぜさせました。いよいよ、山場です。ベーコンです！

デビッドはトングを使って、フライパンの中のベーコンを慎重にひっくり返しました。ベーコンがジュージュと焼け、油が指に飛び散りました。「いたっ！」と、デビッドは言いました。

「注意して」とパパが言いました。パパは蛇口をひねり、デビッドの手を1分間、冷たい水の下に置かせました。それから、熱い油から手を守るために、デビッドになべつかみをわたしました。

「料理ってむずかしいね」と、デビッドは言いました。「そうだね」と、パパは言いました。「新しいことを学ぶというのは大変なことだね。だからこそ、正しい方法を学ばなければならないんだ。」

「そして、たくさん練習すること」とデビッドは言いました。「初等協会で、イエス様でも最初からすべてをごそんじではなかったと学んだよ。」

お父さんはうなずきました。「主でさえも一度に少しずつ学ぶ必要がありました。」

二人はベーコンの調理を終え、すべての料理をテーブルにならべました。家族はみんなその料理に大喜びでした。

ねこのナチョがテーブルの下で鳴きました。「ナチョもきっとほしがってる！」と、デビッドの妹のサラが言いました。

その後も、デビッドは台所でパパをたくさん手伝いました。パパはデビッドに、料理本にのっているたくさんのレシピを見せました。デビッドはクッキーの材料の量り方、たまごのかきまぜ方、デビッドが大好きな飲み物のオルチャータの作り方を学びました。料理の練習をすればするほど、自信がついてきました。

ある日曜日の朝、デビッドはついに準備ができたと感じました。「パパ、今日はぼく一人で朝食を作ってもいい？」台所でパパと一緒にいるとき、デビッドは聞きました。

「いいだろう」と、パパが言いました。「何か助けが必要なら、パパはここにいるからね。」

デビッドは必要なものを取り出し、調理を始めました。前にパパが見せてくれたように、イチゴとバナナを薄切りにしました。こがさずに、注意深くパンケーキをひっくり返しました。

そしてベーコンを調理するときには何をすればいいのかわかっていました。なべつかみとエプロンを着けて、油が自分に飛び散らないようにしました。

すべてを終えると、デビッドは料理を全部テーブルの上にならべました。家族のみんなもすわりました。妹のエミリーがいのり、みんな食べ始めました。

「これ、とってもおいしい」と、弟のジェレミーが言いました。「ありがとう、パパ。」

「実はね、デビッドが全部一人で作ったんだ」と、パパが言いました。

「ほんとう？」と、ジェレミーは言って、デビッドを見ました。「とっても上手になったね！」

デビッドの顔がかがやきました。練習には多くの時間がかかりましたが、家族のために朝食を作ることができて良い気持ちになりました。もっとたくさんのレシピを試してみるのが待ちきれませんでした。●